事例No.	2504
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	家賀再生プロジェクト

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・観光 ・新たな政策手法の確立・活用

事例種類	地域振興

事例内容・タイトル

家賀と藍をこよなく愛する家賀再生プロジェクト

出典

令和5年度優良事例表彰一覧

全国過疎地域連盟会長賞

徳島県つるぎ町

家賀再生プロジェクト

家賀と藍をこよなく愛する家賀再生プロジェクト



世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」から生まれた、「食べる藍」を中心に、歴史ある集落の地域資源を活かした、活性化を目指す。

審査講評

評価のポイント

- 家賀地域ならではの伝統的な農法・文化・歴史を資源として活用している点。
- 商品開発などを通じて地域内外のネットワークが形成され、輪が拡大。

審査委員のコメント

民間企業を巻き込んだ、活動の輪の広がりを評価。

2018年から活動をはじめ、この5年間で伝統農法での藍栽培を復活させたことに加え、パウダー加工した「食べる藍」を使った商品開発が地域内外の企業によってさかんに行われているという輪の広がりに驚きました。商品開発をはじめとした民間企業との連携は、一定の収益が見込めれば持続可能になりやすいため、プレイヤーとして民間企業をどう巻き込むかが重要だと考えられます。



取組の概要

徳島県西部「にし阿波地域」の中でも、最大規模の家賀集落では、年々過疎化が進み、集落存続が危機的状況だったが、平成30年に地域の伝統農耕が「にし阿波の傾斜地農耕システム」として世界農業遺産に認定されたことを契機に、地域外居住メンバー5人で「家賀再生プロジェクト」を立ち上げた。

伝統農耕を活かした「藍」栽培を復活し、食用の「藍粉」を商品化。また、集落の伝統や文化などの紹介を通じた、地域活性化や雇用創出を目的に事業に取り組んでいる。



育てた藍を使って地域内外の食品業者等と協力し、商品開発や販路開拓を行い、積極的な魅力発信につなげている。



にし阿波の傾斜地農耕システムでは欠かすことのできない、カヤを使用した農耕手法を継承し、未来に向けた持続可能な藍栽培を実現している。



農業体験の受け入れ、農福連携の取組等で多くの団体と交流を増やし、関係人口の創出に努めている。



「にし阿波地域」の農業・観光・歴史・自然の魅力を伝える観光ツアーを実施。

取組のKEY PLAYER



枋谷 京子さん
[家賀再生プロジェクト 代表者]

多様な製品に活用し、藍栽培の復活へ。

本プロジェクトは5年前の2018年から開始しました。亡き夫のお墓参りで訪ねていた家賀集落でも古くから行われている農耕が2018年3月に「世界農業遺産」に認定されたのをきっかけに、藍栽培の復活を企図して立ち上げました。取組で工夫した点としては、藍をパウダー状にした「食べる藍」という珍しい品目に着目したことです。この商品は、地場産品である藍を原料として活用することができますし、食用だけではなく化粧品にも活用できるなど、用途の幅広さが強みの一つです。今後の活動の方向性としては、集落内に宿泊施設がないため、集落へ帰省した出身者や観光客、視察者などが滞在できるような拠点となる施設を整備したいです。

審査による現地調査でのヒアリング対象者

枋谷 京子さん [家賀再生プロジェクト 代表者] ／ **石田 修**さん [家賀再生プロジェクト ボランティアガイド]

徳島県つるぎ町

団体名 …… 家賀再生プロジェクト
所在地 …… 〒779-4107 徳島県美馬郡つるぎ町貞光字家賀道上474
連絡先 …… TEL：0883-53-8787
E-mail：kekasaisei.p@gmail.com
URL：https://www.facebook.com/kekasaisei.project/



自治体・団体の詳細はこちらからご覧いただけます。